

西ジャワ州チアンジュール地震緊急支援 モニタリング報告書

2022年12月26日

富澤知香

実施日	2022年12月23日（金）
同行者	（A-PADI）Sinta、Faisal、Anton、富澤 （YKB）Wisnu氏、オフィスマネジメントスタッフ（3名）
行程	<p>5：00 事務所集合、出発</p> <p>7：30 チアンジュール県庁到着</p> <p>8：00 環境衛生・労働衛生・スポーツ部門責任者（Sri氏）へ挨拶</p> <p>8：30 チアンジュール保健局長（Irvan氏）、保健所長（Teni氏）とのミーティング （A-PADの支援活動報告）</p> <p>9：50 ①チアンジュール県ワルンコンダン郡チワレン村 Desa Ciwalen kecamatan Warungkondang, Kabupaten Cianjur</p> <p>10：40 ②チアンジュール県ワルンコンダン郡ブニカシ村 Desa Bunikasih kecamatan Warungkondang, Kabupaten Cianjur</p> <p>11：10 ③チアンジュール県チュグナン郡ババカン集落サランパッド村 Desa Sarampad (Kampung Babakan) kecamatan Cugenang, Kabupaten Cianjur</p> <p>14：30 ④チアンジュール県チュグナン郡パウエナン集落ワングンジャヤ村 Desa Wangunjaya (Kampung Pawenang) kecamatan Cugenang, Kabupaten Cianjur</p> <p>15：40 ⑤チアンジュール県チュグナン郡パシールトゥナゲン集落ワングンジャヤ村 Desa Wangunjaya (Kampung Pasir Tunagan) kecamatan Cugenang, Kabupaten Cianjur</p> <p>23：00 帰着</p>
現地情報	<p>① チアンジュール県ワルンコンダン郡チワレン村</p> <p>78世帯315名</p> <p>私有地にシェルター設置。1テントに約4家族同居（基本は親戚単位）。</p> <p>完成したばかりのMCK※1（トイレ2ユニット、浴場ユニット）</p> <p>全世帯が避難できているわけではなく、一部破損・ヒビ入りの家屋にそのまま住み続けている世帯が多数。連日の雨でテント内浸水している状態。各自ベッド調達等して工夫。</p> <p>スフィア基準だと、10ユニット必要。設置したMCKは女性用、男性は向かいのモスクのトイレを使用。</p> <p>私有地借用のため、今後移動が必要な可能性もあり、設置したMCKは移動可能。避難所撤去（もしくは移動）時にも対応可。</p>

この地域は、公共事業などに携わり現金収入できている。(大通りに面しており、アクセスは便利) その他、食事や雑貨などのワルン (小さな売店) などの営みが復活している。



設置された MCK (写真上)

汚水処理装置 (写真右)



浴場 (写真上)

トイレ (写真左)



② チアンジュール県ワルンコンダン郡ブニカシ村

214 世帯人

MCK 設置開始。使用できそうな個人宅の浴場を改修し、公共用として使用。

(RT/RW※2、所有者との協議、同意のもと実施)

村のすべての世帯が復興したら、個人のものとして使用可能。

共同キッチンが設置されていたが、現在は個々のテント前・家屋で調理できるようになり現在は使用されていない。



倒壊した家屋 (写真上)

共同 MCK へ改修中の元個人所有浴場 (写真右)



③ チアンジュール県チュグナン郡ババカン集落サランパット村

320 世帯人

半年後～1 年後くらいに、政府プログラムの HunTap※3 建設候補地とされている。

元々地下水を使用していたが、地震で水の流れが止まってしまい断水中。現在は水路から水を引いている。

MCK 設置予定あるが、豊富な山の湧き水を水源にする場合私有地所有者の許可が必要なため調整中。水源は 1 キロ先、約 300 本パイプが必要。

食料などの物資は不定期で RT/RW や災害対応拠点から配布あり。ただし、いつ何がどれくらい配布されるかは不明のため、明日・明後日の食料があるのかという不安がある。



サランパット村への道のり (写真左) シェルター (写真右)

④ チアンジュール県チュグナン郡パウエナン集落ワングンジャヤ村

96 世帯 (うち 80 世帯が倒壊、竹を使用した伝統家屋のみそのまま残った)

地崩れしているため、17 世帯は再建できず他へ移転必要。(内 4 世帯は必須) 移転先の保証はないが、地崩れした土地の使用を禁止されている。

湧き水を水源に供給装置を設置。これから各箇所へ配水できるよう整備。



倒壊した村役場 (写真左上)



RT01 の長と情報交換 (写真右上)



水源から引いてきたパイプ（写真左上）

現在は川の水を引いているが、各箇所配水できるよう整備予定（写真右上）

- ⑤ チアンジュール県チュグナン郡パシールトゥナゲン集落ワングンジャヤ村
90世帯（95%が倒壊）、A-PAD（YKB）の支援中心地。

ゴトンロヨン※4シェルターモデル地。倒壊した家屋の瓦礫を撤去し、基礎（家屋の床）をそのまま使用し、シェルターを設置。

初期支援でポータブルトイレの物資提供が他団体からあったが、排水・汚水処理まで考慮されておらず、村の側溝に汚水が垂れ流し状態であった。多くの水設備のフォローをしている地域。



ゴトンロヨンモデルのシェルター（写真上）



家屋は倒壊したが、台所と浴場・トイレは残った。瓦礫を移動し、ゴトンロヨンモデルのシェルターを建設し、浴場・トイレは共同MCKとして使用予定。



元はモスクの礼拝前のお清め用水場だった場所に、水を引き共同水場として使用できるようにした。(写真左上)

設置した貯水タンク。ここから7か所に配水される。(写真右上)

補足

※1 MCK=沐浴・洗濯・トイレの機能を持つ施設のこと

※2 RT/RW=村の住民組織

※3 HunTap (Hunian Tetap) =政府主導の住宅再建プログラム。各村が所有している土地に集団住宅を建設し、そこに被災者が集団移転する。

※4 ゴトンロヨン=コミュニティにおける相互扶助活動

その他

・まだ十分に清潔な水へのアクセスができておらず、川の水などを生活用水として使用せざるを得ない地域や世帯もある。また、連日の雨でシェルター内に浸水しており、竹を組み底上げをしているが、カーペットや寝具がないと被災者から声があった。

・「既存のさまざまな資源を活用して代替策を見出し、地域の自立を強化する取り組み」として、モスクや個人宅の MCK を改修し公共設備として再利用することで、復興後放置されず息の長い設備としての活用が可能。(対象地区の全ての世帯が復興後は、個人宅の MCK としてそのまま使用。)

・政府主導の住宅再建プログラムは、現在 200 軒の建設を進めているが、チアンジュール全体で入居条件や時期、優先順位など全く決まっておらず、次の建設計画も不明のままである。

(参考)

12月22日実施のチアンジュール AMPL サブクラスター調整会議

公共住宅・居住地域局からの招集 (WASH 情報について)、保健局 (保健所長) 同席

 アクティビティマップ最新情報の更新が必要。45 の優先設置地域のうち、13 地域への設置が完了。アセスメントを実施した 357 の避難所で、150 の避難所が未だトイレへのアクセスが困難。さらに 6000 個のトイレが必要。貯水池は現在 190 か所で、341 か所の増設が必要。

被災者は最低でも 1~2 年間はシェルターで生活することになるため、その間に必要なのはその期間、持続可能な WASH の介入が必要。

	<p>難民キャンプでは、ゴミの収集（廃棄物収集）も問題の一つ。 高齢者、障害者等のハイリスクの方も包括できるようにする。</p>
	<p><課題>シンタさん案</p> <ul style="list-style-type: none">・N連事業で進めている DALA ツールを実際に活用し、各地からフィードバックを回収し地域にあったものに仕上げていく必要がある。(今回活用を検討したが、導入タイミングを逃したとのこと。)・SAP システムの導入。配給物資を効率的に使用できるよう運用できるアプリなどを検討。RT/RW のリーダーに世帯数・住人数を入力してもらうところまではフォローし、その後は必要物資などチェックを入れるだけでいいような簡単ものが望ましい。また、民間セクターとの連携で必要物資をタイムリーに共有できるところまでつなげたい。災害時日本でのロジはどうなっているのか、参考にしたい。

以上